

医学教育分野別評価

大阪公立大学医学部医学科  
年次報告書

2025 年度

評価受審年度 2024 年度

2025 年 8 月

大阪公立大学医学部医学科

## <2025年度 年次報告書 略語・用語一覧>

- FD : Faculty Development
  - ・FD 講演会 : 年4回開催の講演会。教員と学生（3・5年生）が受講対象。
  - ・FD-WS : 年2回開催のワークショップ（WS）。新採用、昇任の教員が受講対象。
- REDCap : Research Electronic Data Capture（データ集積管理システム）
- EBM : Evidence-Based Medicine
- CC : Clinical Clerkship
- OSCE : Objective Structured Clinical Examination（客観的臨床能力試験）
  - ・ユニット型OSCE：ユニット型CCでローテートしている5年生を対象に実施するOSCE
  - ・Post-CC OSCE：診療参加型臨床実習を終えた6年生が受験するOSCE
- Mini-CEX : Mini-Clinical Evaluation Exercise（簡易版臨床能力評価表）
- IR : Institutional Research

**医学教育分野別評価の受審 2024（令和 6）年度**  
**受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.36**  
**本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.36**

## 1. 使命と学修成果

<b>1.1 使命 [基本的水準]</b>
<b>2024 年度の評価：適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・「智・仁・勇」の 3 つの基本理念に基づき医学部の使命が明示されている。
<b>改善のための助言</b>
・使命とディプロマポリシー、コンピテンスとの関係性を明確にすべきである。
<b>関連する教育活動、改善内容や今後の計画</b>
・使命として「智・仁・勇」が明示されているが、ディプロマポリシーとコンピテンスとの関連性は、コンピテンス毎に関係性が定められており、コンピテンスに関係性を示している。今後、ホームページの使命にコンピテンスを記載して、その関係性を明示することを検討していく。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
【資料】なし

<b>1.1 使命 [質的向上のための水準]</b>
<b>2024 年度の評価：部分的適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・なし
<b>改善のための示唆</b>
・使命に国際的健康、医療の観点を包含し、明示することが望まれる。
<b>関連する教育活動、改善内容や今後の計画</b>
・国際的健康、医療の観点に関して、コンピテンス 9 の「生涯にわたって共に学ぶ姿勢」の下位コンピテンシーに設定されている。使命には明示できていないため、今後、コンピテンスの変更を検討していく。その後、ホームページとシラバスに明示していく。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
【資料】なし

<b>1.2 大学の自律性および教育・研究の自由 [基本的水準]</b>
<b>2024 年度の評価：適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・教務委員会、カリキュラム策定委員会、カリキュラム評価委員会により医学部

が自律性を持って教育施策を実施している。
<b>改善のための助言</b>
・なし
<b>関連する教育活動、改善内容や今後の計画</b>
・教育に関連する委員会の活動を継続し、引き続き自律性を持って教育施策を実行していく。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
【資料1】教育組織図

<b>1.2 大学の自律性および教育・研究の自由【質的向上のための水準】</b>
<b>2024 年度の評価：適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・「医学研究推進コース 1、2、3」などで最新の研究結果を利用し教育向上を進めている。
<b>改善のための示唆</b>
・なし
<b>関連する教育活動、改善内容や今後の計画</b>
・教育に関連する委員会で、引き続き教員と学生の意見を取り入れてカリキュラムの課題の抽出し、カリキュラムへの提言を行う。「医学教育推進コース 1、2、3」を中心に引き続き、最新の研究結果を探索し、利用していく。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
【資料A】2025年医学部医学科要覧

<b>1.3 学修成果【基本的水準】</b>
<b>2024 年度の評価：部分的適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・学修成果として 9 つのコンピテンスと、27 のコンピテンシーを定めている。
<b>改善のための助言</b>
・「早期臨床実習 1、2、3」や「診療参加型臨床実習のための学習ガイド」以外でも行動規範を定め、学生に明示すべきである。 ・学修成果を学生および教員に確実に周知すべきである。
<b>関連する教育活動、改善内容や今後の計画</b>
・行動規範に関しては、実習毎に明示しているが、シラバスに明示できていない。修学上の注意事項の項目を整理して、行動規範として明示することを検討していく。 ・学修成果は学生、教員に確実に周知できるようにシラバス、ホームページ、ガイダンス、FD 講演会など、教育にかかわるあらゆる場面で明示していくことを検討している。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
【資料A】2025年医学部医学科要覧

<b>1.3 学修成果 [質的向上のための水準]</b>
<b>2024 年度の評価：適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・附属病院独自の卒後研修のコンピテンスを設定し、卒前のコンピテンスとの整合を明確にしている。
<b>改善のための示唆</b>
・なし
<b>関連する教育活動、改善内容や今後の計画</b>
・卒後研修と卒前のコンピテンスの整合性を保ちつつ、継続的にコンピテンスが適切かどうかを確認していく。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
【資料】なし

<b>1.4 使命と成果策定への参画 [基本的水準]</b>
<b>2024 年度の評価：部分的適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・なし
<b>改善のための助言</b>
・使命と学修成果の策定にかかる教務委員会に学生代表が参画すべきである。
<b>関連する教育活動、改善内容や今後の計画</b>
・教務委員会への学生参加の是非については、教務委員会戦略部会を中心に引き続き検討していく。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
【資料2】教務委員会戦略部会議事録（2025.5.1）、（2025.6.5）

<b>1.4 使命と成果策定への参画 [質的向上のための水準]</b>
<b>2024 年度の評価：部分的適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・なし
<b>改善のための示唆</b>
・使命と学修成果の策定には、患者、地域医療の代表者、行政組織、卒後医学教育関係者なども含め、広い範囲の教育の関係者からの意見を聴取することが望まれる。
<b>関連する教育活動、改善内容や今後の計画</b>
・教育点検評価委員会において「使命と学修成果」を定期的に議題に挙げて広い関係者から意見を聴取していく。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
【資料】なし

## 2. 教育プログラム

<b>2.1 教育プログラムの構成 [基本的水準]</b>
<b>2024 年度の評価：適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・卒業時学修成果（コンピテンス・コンピテンシー）とマイルストーンがそれぞれの科目と関連づけられている。
<b>改善のための助言</b>
・なし
<b>関連する教育活動、改善内容や今後の計画</b>
・引き続き、卒業時学修成果（コンピテンス・コンピテンシー）とマイルストーンがそれぞれの科目と関連づけ、教員や学生に周知し、必要なところから改善を実施する。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
【資料】なし

<b>2.1 教育プログラムの構成 [質的向上のための水準]</b>
<b>2024 年度の評価：適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・データ集積管理システム「Research Electronic Data Capture (REDCap)」を活用し、生涯学習につながる臨床実習プログラムを設定している。
<b>改善のための示唆</b>
・なし
<b>関連する教育活動、改善内容や今後の計画</b>
・能動的な生涯学習につながるカリキュラムとして3年生の医学研究推進コース3（旧修業実習）を実施しており、研究成果発表の機会を2024年度は5教室に拡大し、2年生はその発表を聴講させた。また、2025年度は受け入れ教室として基礎系、社会医学系教室に加え臨床系から6教室参加することになり、生涯学習につながる教育を実施していく。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
【資料3】カリキュラム策定委員会基礎部会議事録（2025.1.14）（2025.4.1）
【資料4】教務委員会議事録（2025.5.13）

<b>2.2 科学的方法 [基本的水準]</b>
<b>2024 年度の評価：部分的適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・「医学研究推進コース1、2、3」を通じて低学年から系統的に科学的手法の

原理および医学研究の手法を教育する機会が設定されていることは評価できる。
<b>改善のための助言</b>
・臨床実習における体系的な EBM の学修機会を構築すべきである。
<b>関連する教育活動、改善内容や今後の計画</b>
・CC 期間中の EBM の実践の経験を今後も継続し、学習ガイドにも EBM 教育を実施していることを明示する予定である。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
【資料5】カリキュラム策定委員会臨床部会議事録（2025. 6. 12）

<b>2.2 科学的方法 [質的向上のための水準]</b>
<b>2024 年度の評価：適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・最新の医学研究の成果を学びあう「Lunch Webinar」や、医学のみならず工学系のトピックスを学びあう「医工連携 Webinar」を開催し、医師だけでなく学生にも公開発信し、参画を促している。
<b>改善のための示唆</b>
・なし
<b>関連する教育活動、改善内容や今後の計画</b>
・「医工連携 Webinar」は「医獣工連携 Webinar」へと、医学、工学、さらには獣医学のトピックスを学びあう場となり、連携を拡大している。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
【資料6】医獣工連携Webinar

<b>2.3 基礎医学 [基本的水準]</b>
<b>2024 年度の評価：適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・基礎・臨床合同部会等で、臨床医学を修得し理解するのに役立つよう、基礎医学のあり方を議論している。
<b>改善のための助言</b>
・なし
<b>関連する教育活動、改善内容や今後の計画</b>
・能動的な生涯学習につながるカリキュラムとして 3 年生の医学研究推進コース 3（旧修業実習）を実施しており、2025 年度は受け入れ教室として基礎系、社会医学系教室に加え臨床系から 6 教室参加することになった。臨床医学を修得し理解するのに役立つよう今後も各種委員会で議論していく。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
【資料3】カリキュラム策定委員会基礎部会議事録（2025. 4. 1）
【資料4】教務委員会議事録（2025. 5. 13）

<b>2.3 基礎医学 [質的向上のための水準]</b>
------------------------------

<b>2024 年度の評価：部分的適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・なし
<b>改善のための示唆</b>
・現在および将来的に社会や保健医療システムにおいて必要になると予測されることを調査・抽出し、カリキュラムを調整することが望まれる。
<b>関連する教育活動、改善内容や今後の計画</b>
・今後新規の治療法につながる様な免疫細胞、分子生物学的な革新的な発見、腸内微生物叢、ワクチン開発などの最新の研究を網羅し、将来的に社会や保健医療システムにおいて必要になると予測されることを講義している。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
【資料A】2025年医学部医学科要覧 (P. 117)

<b>2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学 [基本的水準]</b>
<b>2024 年度の評価：部分的適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・なし
<b>改善のための助言</b>
・2023 年度に組織された「医療プロフェッショナルコースプログラム検討委員会」を中心に行動科学に関する系統的なプログラムを再編し、実施すべきである。 ・臨床実習において、行動科学や医療倫理学を確実に学修できるようカリキュラムを構築し実践すべきである。
<b>関連する教育活動、改善内容や今後の計画</b>
・引き続き、「医療プロフェッショナルコースプログラム検討委員会」を中心に行動科学に関する系統的なプログラムを検討する。 ・引き続き、カリキュラム策定委員会臨床部会において臨床実習における行動科学や医療倫理学について学修できるようカリキュラムを検討する。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
【資料】なし

<b>2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学 [質的向上のための水準]</b>
<b>2024 年度の評価：部分的適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・なし
<b>改善のための示唆</b>
・科学的・臨床的進歩、現在および将来的に社会や保健医療システムにおいて必要になると予測されることに従って、行動科学、医療倫理学のカリキュラムを調整および修正する体制を構築し実践することが望まれる。
<b>関連する教育活動、改善内容や今後の計画</b>
・引き続き、カリキュラム策定委員会臨床部会において臨床実習における行動科

学や医療倫理学について学修できるようカリキュラムを検討する。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
【資料】なし

<b>2.5 臨床医学と技能 [基本的水準]</b>
<b>2024 年度の評価：部分的適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>ユニット型 CCにおいて、17 診療科 23 項目の医療手技トレーニングが行われていることは評価できる。</li> <li>5 年次のユニット型 CC で「ユニット型 OSCE」や mini-CEX が行われ、学生個々のパフォーマンスに対して各評価者から個別評価が複数回フィードバックされて臨床技能の修得につなげていることは高く評価できる。</li> </ul>
<b>改善のための助言</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>診療参加型臨床実習において、すべての学生が、主要な診療科で十分に学修する期間を確保すべきである。</li> </ul>
<b>関連する教育活動、改善内容や今後の計画</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>診療参加型臨床実習における主要な診療科で十分に学修する期間について、教務委員会戦略部会及びカリキュラム策定委員会臨床部会においてカリキュラムの改訂を行っている。</li> </ul>
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
【資料2】教務委員会戦略部会議事録（2025. 6. 5）
【資料5】カリキュラム策定委員会臨床部会議事録（2025. 6. 12）

<b>2.5 臨床医学と技能 [質的向上のための水準]</b>
<b>2024 年度の評価：適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>「早期臨床実習 1、2、3」を通じて、すべての学生が、徐々に実際の患者診療への参画を深めるカリキュラムを構築している。</li> </ul>
<b>改善のための示唆</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>なし</li> </ul>
<b>関連する教育活動、改善内容や今後の計画</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>文部科学省 高度医療人材養成事業の一環で導入した手術支援ロボット『ダヴィンチ』を使用し、4年生がロボットシミュレーター研修を行った。ロボットシミュレーター研修を行うことで、ロボット操作がいかなるものかを事前に学習・体験することができ、その後の臨床実習がより現実味を帯びた、学習効果の高いものになることを目的としている。</li> </ul>
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
【資料7】ロボット支援手術実習について

<b>2.6 教育プログラムの構造、構成と教育期間 [基本的水準]</b>
---------------------------------------

<b>2024 年度の評価：適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・カリキュラムマップ、マイルストーン、カリキュラムロードマップを医学科要覧に掲載し、教育範囲、教育内容、教育科目の実施順序を明示している。
<b>改善のための助言</b>
・なし
<b>関連する教育活動、改善内容や今後の計画</b>
・引き続き、教員と学生にカリキュラムマップやマイルストーンなどを FD 講演会等で周知し、各種委員会で適宜修正していく。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
【資料】なし

<b>2.6 教育プログラムの構造、構成と教育期間 [質的向上のための水準]</b>
<b>2024 年度の評価：適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・カリキュラム策定委員会の中に置かれている「基礎臨床合同垂直統合型教育推進作業部会」の活動により、水平的・垂直的統合教育が推進されていることは評価できる。
<b>改善のための示唆</b>
・基礎医学において水平的統合教育をより充実させることが望まれる。
<b>関連する教育活動、改善内容や今後の計画</b>
・水平的統合教育の拡充については、引き続きカリキュラム策定委員会基礎部会において検討していく。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
【資料】なし

<b>2.7 教育プログラム管理 [基本的水準]</b>
<b>2024 年度の評価：部分的適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・なし
<b>改善のための助言</b>
・教育カリキュラムの実施に責任と権限を持つ教務委員会に正式な構成員として学生代表を含むべきである。
<b>関連する教育活動、改善内容や今後の計画</b>
・教務委員会戦略部会において教務委員会等の規程の改訂を行っている。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
【資料2】教務委員会戦略部会議事録（2025. 6. 5）

<b>2.7 教育プログラム管理 [質的向上のための水準]</b>
-----------------------------------

<b>2024 年度の評価：部分的適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・なし
<b>改善のための示唆</b>
・教育カリキュラムの立案および実施に責任と権限を持つ組織である、カリキュラム策定委員会および教務委員会の構成員に、広い範囲の教育の関係者の代表を含むことが望まれる。
<b>関連する教育活動、改善内容や今後の計画</b>
・外部委員が参画している教育点検評価委員会とカリキュラム策定委員会および教務委員会の連携を図っていく。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
【資料】なし

<b>2.8 臨床実践と医療制度の連携 [基本的水準]</b>
<b>2024 年度の評価：適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・卒前教育のコンピテンシーに関連付けた附属病院独自の卒後臨床研修の到達目標を用いて、卒前教育と卒後の教育・臨床実践との間の連携を行っている。
<b>改善のための助言</b>
・なし
<b>関連する教育活動、改善内容や今後の計画</b>
・引き続き、本学卒業生が就職した初期臨床研修先施設に対して、卒業生の学修成果に関する調査を実施し、卒業生の卒業時コンピテンス・コンピテンシーなどの達成度についての意見を集約していく。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
【資料8】2024年度卒業生の学修成果に関する調査

<b>2.8 臨床実践と医療制度の連携 [質的向上のための水準]</b>
<b>2024 年度の評価：部分的適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・なし
<b>改善のための示唆</b>
・卒業生が将来働く環境、地域や社会の意見を系統的に収集して、教育プログラムに確実に反映させることが望まれる。
<b>関連する教育活動、改善内容や今後の計画</b>
・引き続き、本学卒業生が就職した初期臨床研修先施設に対して、卒業生の学修成果に関する調査を実施し、改善すべき点があれば教育プログラムを改良していく。また、IR運営委員会を中心に質問内容の見直しも継続して実施していく。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
【資料9】IR運営委員会議事録(2024.11.22)

### 3. 学生の評価

<b>3.1 評価方法 [基本的水準]</b>
<b>2024 年度の評価：部分的適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・なし
<b>改善のための助言</b>
・低学年における態度評価を確実に実施すべきである。 ・評価が外部の専門家によって精密に吟味されるべきである。
<b>関連する教育活動、改善内容や今後の計画</b>
・IR 運営委員会において、低学年における態度評価が報告された。今後水平展開に向けて検討していく。 ・引き続き、学内教員だけではなく、関連教育施設の臨床教授等の外部評価を活用していく
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
【資料9】IR運営委員会議事録(2024.11.22) 【資料2】教務委員会戦略部会議事録 (2022. 6. 2) 【資料10】PostCC OSCE 臨床教授への従事依頼

<b>3.1 評価方法 [質的向上のための水準]</b>
<b>2024 年度の評価：適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・「ユニット型 OSCE」を 5 年次に 5 回以上実施し、学生の臨床能力を評価していることは高く評価できる。 ・臨床実習後 OSCE で臨床教授等の外部の評価者を多く活用していることは評価できる。
<b>改善のための示唆</b>
・評価方法の信頼性と妥当性の検証をさらに進めることが望まれる。
<b>関連する教育活動、改善内容や今後の計画</b>
・ユニット型 OSCE、Mini-CEX、外部評価者を含めた学生の臨床能力評価を継続して行っていく ・評価方法の信頼性と妥当性の検証を進めるために、当該試験と外部専門家の選定を検討する。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
【資料】なし

<b>3.2 評価と学修との関連 [基本的水準]</b>
------------------------------

<b>2024 年度の評価：部分的適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・なし
<b>改善のための助言</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標とするコンピテンス、コンピテンシーと教育方法に整合した評価を実践すべきである。</li> <li>・目標とする学修成果を学生が達成していることを、客観的にも保証する評価を実践すべきである。</li> <li>・責任ある委員会において形成的評価と総括的評価の適切な比重について検討し、学生の学修と教育進度をわかりやすく判定できる評価を行うべきである。</li> </ul>
<b>関連する教育活動、改善内容や今後の計画</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標とするコンピテンス、コンピテンシーは既に設定されており、シラバスには各コース、講座ごとの学修目標、方略、評価方法が記載されている。シラバスは毎年記載内容の見直しがなされたり、引き続き、教育方法に整合した評価を実践した評価であるか、目標とする学修成果を学生が達成していることを客観的に評価できているか、について検討するよう依頼する。</li> <li>・カリキュラムマップ、マイルストーン、ロードマップに沿った各評価の質的、量的、また、比率などの妥当性を検証していくため、ブループリントを作成して評価の体系化を行っていく。</li> </ul>
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
【資料11】医学部医学科教育要項の作成について
【資料2】教務委員会戦略部会議事録資料（2025. 7. 3）

<b>3.2 評価と学修との関連 [質的向上のための水準]</b>
<b>2024 年度の評価：部分的適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・なし
<b>改善のための示唆</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価結果に基づいて、時機を得た、具体的、建設的、そして公正なフィードバックを確実に行うことが望まれる。</li> </ul>
<b>関連する教育活動、改善内容や今後の計画</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラム策定委員会において、形成的評価の実施方法について、討議を行った。</li> <li>・FD 講演会で Mini-CEX を例に学生の適正なフィードバック方法に関するテーマを取り上げた</li> <li>・FD-WS では定期的に「学生評価」、「学習方法」をテーマに取り上げており、引き続き教員の教育の質向上に努める</li> </ul>
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
【資料12】FD講演会（2024. 12. 9）
【資料13】FD-WS

## 4. 学生

<b>4.1 入学方針と入学選抜 [基本的水準]</b>
<b>2024 年度の評価：適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・合理的配慮支援が必要な学生の受け入れについて、「障がい学生支援ガイドライン」を制定し、アクセシビリティセンターでの対応を実施している。
<b>改善のための助言</b>
・なし
<b>関連する教育活動、改善内容や今後の計画</b>
・本学では、アドミッション・ポリシーに基づき、多様な選抜制度を整備している。修学上の配慮は主に入学後の申請により対応しているが、受験前の相談にも応じており、学生募集要項および入学者選抜要項に明記している【資料 14】【資料 15】。過去には視覚障がいのある志願者に対し、事前相談に基づく支援経験があり、今後も継続して対応していく。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
【資料14】2025年度 学生募集要項
【資料15】2025年度 入学者選抜要項

<b>4.1 入学方針と入学選抜 [質的向上のための水準]</b>
<b>2024 年度の評価：部分的適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・なし
<b>改善のための示唆</b>
・入学決定に対する疑義申し立て制度を採用することが望まれる。
<b>関連する教育活動、改善内容や今後の計画</b>
・本学では、受験者本人からの申請に基づき、大学入学共通テストおよび個別学力検査の得点（配点公表分）を開示しており、その旨を学生募集要項に明記している。これに加えて、入学決定に対する疑義の申し立てに対しては、大学運営本部入試室が窓口となり、個別に対応している【資料 14】。
・こうした運用は、現時点において一定の疑義申し立て機能を果たしていると評価しているが、今回の評価結果を踏まえ、より明確な「疑義申し立て制度」としての整備の必要性を認識している。今後は、制度名称・運用フロー・対応範囲などの整理を進め、制度としての明文化を検討する。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
【資料14】2025年度 学生募集要項

## 4.2 学生の受け入れ [基本的水準]

<b>2024 年度の評価：適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・一般枠 80 名、地域医療枠 10 名、大阪府指定医療枠 5 名の学生を受け入れている。
<b>改善のための助言</b>
・なし
<b>関連する教育活動、改善内容や今後の計画</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本学では、医学科の募集人員を、社会的要請および教育資源を踏まえて設定しており、2025 年度は一般枠 80 名、地域医療枠 10 名、大阪府指定医療枠 4 名であり、学生募集要項および入学者選抜要項に明示している【資料 14】【資料 15】【資料 16】。</li> <li>・入学者数や学生数の増減に対応するため、屋根瓦式教育体制や TA 制度の活用、教育プログラムの調整、施設・設備の改善などを適宜検討している【資料 17】。</li> </ul>
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>【資料14】2025年度 学生募集要項</li> <li>【資料15】2025年度 入学者選抜要項</li> <li>【資料16】入学定員数の推移</li> <li>【資料17】TA分野別集計表</li> </ul>

<b>4.2 学生の受け入れ [質的向上のための水準]</b>
<b>2024 年度の評価：適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・地域や社会からの要請に合うよう地域医療枠および大阪府指定医療枠を設置し、IR 室のデータをもとに学生の資質を定期的に見直している。
<b>改善のための示唆</b>
・なし
<b>関連する教育活動、改善内容や今後の計画</b>
・IR 室による分析結果を活用しつつ、地域の要請や進路実績等を踏まえた入学者数や学生の資質の定期的な見直しを、今後も現行の体制で継続していく。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
【資料9】IR運営委員会議事録

<b>4.3 学生のカウンセリングと支援 [基本的水準]</b>
<b>2024 年度の評価：適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・チューターが学生のカウンセリングと支援を行う際の資料として、学生の入学時の決意表明や毎年の自己紹介シートを活用している。
<b>改善のための助言</b>
・チューター制度をより実質化すべきである。
<b>関連する教育活動、改善内容や今後の計画</b>

- ・本学のチューター制度では年に1回以上面談を行い、面談前に提出された自己紹介シート等を活用することで、学生理解を深めた支援を行っている【資料18】。
- ・FD講演会やFD-WSを定期的に開催している【資料12】。メンター教育、メンタリングについての話題提供も行い、今後も教務委員会と学務課の連携のもと、制度の継続的な充実を図っていく。

#### **改善状況を示す根拠資料**

- 【資料18】チューター制度
- 【資料12】FD講演会
- 【資料13】FD-WS

### **4.3 学生のカウンセリングと支援 [質的向上のための水準]**

#### **2024年度の評価：適合**

##### **特記すべき良い点（特色）**

- ・なし

##### **改善のための示唆**

- ・なし

##### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

- ・チューター制度やFD活動を継続するとともに、学生のキャリアガイダンスやプランニング支援も含めた支援体制の維持と充実に今後も務めていく。

#### **改善状況を示す根拠資料**

- ・なし

### **4.4 学生の参加 [基本的水準]**

#### **2024年度の評価：部分的適合**

##### **特記すべき良い点（特色）**

- ・教育プログラムの策定に係るカリキュラム策定委員会に学生が参画している。

##### **改善のための助言**

- ・使命の策定および教育プログラムの管理を審議する教務委員会、教育プログラムの評価を審議するカリキュラム評価委員会、および学生に関する諸事項を審議する委員会に正式な委員として学生代表が参加し適切に議論に加わるべきである。

##### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

- ・各種委員会に学生代表が適切に参加できるよう、教務委員会戦略部会を中心に各種委員会規約の見直し改訂を行っている。学生が教育プログラムの策定・管理・評価などに組織的に参画できる体制を推進していく。改訂にあたっては、各委員会の独立性にも留意するように検討を行っている。

#### **改善状況を示す根拠資料**

- 【資料2】教務委員会戦略部会議事録（2025.5.1）、（2025.6.5）

### **4.4 学生の参加 [質的向上のための水準]**

<b>2024 年度の評価：適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・附属病院小児科における「ベッドサイドボランティア」、院内ボランティア活動「マーブルタウン」など、学生が参加するボランティア活動に対して教職員が支援を行っている。
<b>改善のための示唆</b>
・なし
<b>関連する教育活動、改善内容や今後の計画</b>
・今後も学生の要望や社会的状況を踏まえ、適切な支援を継続・検討していく。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
・なし

## 5. 教員

<b>5.1 募集と選抜方針 [基本的水準]</b>
<b>2024 年度の評価：適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・なし
<b>改善のための助言</b>
・女性教員の割合について、大学で定めた目標に向けて改善に取り組むべきである。
<b>関連する教育活動、改善内容や今後の計画</b>
・女性研究者支援のために、研究支援員制度等の活用促進を進めているところである【資料 19】。
・大阪公立大学は令和 5 年度の文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（女性リーダー育成型）」に採択されており、当該事業の中で女性教員の割合の改善に取り組んでいる【資料 20】。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
【資料19】2025年度 研究支援員制度利用申請の募集について 【資料20】科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（女性リーダー育成型）」

<b>5.1 募集と選抜方針 [質的向上のための水準]</b>
<b>2024 年度の評価：適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・地域に固有の問題に対して、「大阪公立大学医学部附属病院先端予防医療部附属クリニック MedCity21」などに教員を配置し、学生教育に反映させている。
<b>改善のための示唆</b>
・なし

**関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

- ・引き続き、大阪公立大学医学部附属病院先端予防医療部附属クリニック MedCity21 に教員を配置し学生教育に活用していく。

**改善状況を示す根拠資料**

【資料】なし

**5.2 教員の活動と能力開発 [基本的水準]****2024 年度の評価：部分的適合****特記すべき良い点（特色）**

- ・各教室が持ち回りの FD 講演会や「Lunch Webinar」など、さまざまな教員研修を実施していることは評価できる。
- ・年 4 回の FD 講演会には全教員と学生の参加を義務付けて、医学教育の向上を目指してさまざまな情報を共有していることは高く評価できる。
- ・ライフィイベント中の女性研究者、またはそのパートナーの男性教員を対象として、研究業務の一部を代替する研究支援員の派遣を行う制度が活用されている。

**改善のための助言**

- ・教員の業績評価の際に、教育、研究、診療にかけるエフォート率を含めた評価を実施すべきである。
- ・個々の教員がカリキュラム全体を確実に理解した上で教育を担当すべきである。

**関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

- ・FD 講演会を現在も継続しており、その中で新たな取り組みとして、前回の医学教育分野別認証評価受審の全体の振り返りで 1 回、そしてさらに各領域の振り返りや課題、取り組みについて、各領域の対応の取りまとめを担当した教員がそれぞれ 30 分前後の講演にまとめ、医学部の教員全体で共有していく取り組みを行なっている【資料 12】。次回の受審に向けて各領域の取りまとめを新たに担当する教員も決定している。

すべての教員がカリキュラム全体を把握できるよう、6 年間のマイルストーンを設定し、シラバスに掲載している。また年度ごとにシラバスの内容を充実させ、FD 講演会などで周知を行っていく。

2025～2027 年度における教員活動点検・評価より、教育、研究、社会貢献、大学運営、診療（社会貢献）の領域ごとに比重を設定のうえ点検・評価を実施する【資料 20】。※ 診療（社会貢献）については、医学研究院独自の設定領域

**改善状況を示す根拠資料**

【資料12】FD講演会

【資料21】次期教員活動点検・評価（2025～2027年度）にかかる評価設定報告書について（医学研究院）

**5.2 教員の活動と能力開発 [質的向上のための水準]****2024 年度の評価：適合**

<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・臨床系教員の昇任に際し「臨床研修指導医講習会」への参加が求められている。
<b>改善のための示唆</b>
・大学統合に伴い、必要な教員の数、配置について継続して検討することが望まれる。
<b>関連する教育活動、改善内容や今後の計画</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎系の人事に関しては、2025年度より基礎医学講座再編実施委員会（基礎系執行部による会議）および基礎系教授懇談会（基礎系教授全員出席）を年間4回以上定例開催することとしており、教員の配置に関して、より活発に議論のうえ検討を進めていく予定である。</li> <li>臨床系の人事に関しては、従前どおり、臨床再編実施委員会（臨床系執行部による会議）を毎月開催のうえ、大学全体の制度であるポイント制による人事に対応できるよう、講座ごとの既定の枠概念にとらわれず、柔軟かつ戦略的な人事の実施を目指す。</li> <li>全学の方針として各研究科で一律に教員の人数削減が示されており、医学部としてJACMEのクライテリアに合致する医学部教育の提供に必要な教員数を確保できるように検討・要望していく。</li> </ul>
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
【資料】なし

## 6. 教育資源

<b>6.1 施設・設備 [基本的水準]</b>
2024年度の評価：適合
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・なし
<b>改善のための助言</b>
・なし
<b>関連する教育活動、改善内容や今後の計画</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>文部科学省 高度医療人材養成事業の一環で導入した手術支援ロボット『ダヴィンチ』を使用し、医学部4年生がロボットシミュレーター研修を行った。ロボットシミュレーター研修を行うことで、ロボット操作がいかなるものかを事前に学習・体験することができ、その後の臨床実習がより現実味を帯びた、学習効果の高いものになることを目的としている。また、最先端技術を学生のうちから体験することで、より外科手術へ興味をもっていただき、将来的な外科医不足解消へつながることを期待している。</li> </ul>
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
【資料7】ロボット支援手術実習について

<b>6.1 施設・設備 [質的向上のための水準]</b>
-------------------------------

<b>2024 年度の評価：適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・教育の充実を図るための中長期的行動計画として、2025 年度から森之宮キャンパスの開設を予定している。
<b>改善のための示唆</b>
・なし
<b>関連する教育活動、改善内容や今後の計画</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2025 年 4 月、大阪公立大学看護学部・研究科が阿倍野キャンパスに集約され新たな学舎として阿倍野新学舎（C 棟）が開設された。開設にあたりスキルスシミュレーションセンターが新学舎に移転し、最先端のシミュレーション機材を備えた演習室、グループ単位で学べるセミナー室が増設された。看護学科とのさらなる連携強化が期待される。</li> <li>・2025 年 9 月以降から全学初年次教育の場として森之宮キャンパスが開設される。</li> </ul>
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
【資料22】阿倍野新学舎C棟・SSC移転について
【資料23】森之宮キャンパスについて

<b>6.2 臨床実習の資源 [基本的水準]</b>
<b>2024 年度の評価：部分的適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・臨床実習の期間中に臨床技能修得できるように「スキルスシミュレーションセンター（SSC）」を設置し、活用している。
<b>改善のための助言</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・データ集積管理システム「REDCap」を用いて、学生が経験した患者数と疾患分類を把握した上で、適切な臨床経験が詰めるように臨床実習施設を充実すべきである。</li> </ul>
<b>関連する教育活動、改善内容や今後の計画</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・スキルスシミュレーションセンター（SSC）を看護新棟（C 棟）に移設するとともに、医学科・看護学部の学生のみならず、多職種連携実習を推進する。</li> <li>・関連教育施設との連携を強化し、改訂モデルコアカリキュラムの準拠した教育プログラムが提供できるよう教務委員会戦略部会で協議を行っている。</li> </ul>
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
【資料22】阿倍野新学舎C棟・SSC移転について
【資料2】教務委員会戦略部会議事録（2025. 5. 1）、（2025. 6. 5）

<b>6.2 臨床実習の資源 [質的向上のための水準]</b>
<b>2024 年度の評価：適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・地域住民の要請に応えて、泉大津市地域周産期センター臨床研修寄附講座が二

次医療圏における母子医療を担当し、臨床実習施設として活用されている。
<b>改善のための示唆</b>
・なし
<b>関連する教育活動、改善内容や今後の計画</b>
・臨床実習において学生が経験した症候や症例を継続的にモニタリングする。偏りなく経験できているか、IR運営委員会、カリキュラム評価委員会で分析、評価を行う
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
【資料24】2024年度 37症候・26疾患到達度
【資料9】IR運営委員会議事録

<b>6.3 情報通信技術 [基本的水準]</b>
<b>2024 年度の評価：適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・情報通信については、情報セキュリティセンターおよび学術情報総合センターにて管理運営を実施している。
<b>改善のための助言</b>
・なし
<b>関連する教育活動、改善内容や今後の計画</b>
・情報セキュリティセンターポリシーおよび実施規程に基づき、引き続き、情報システムのアクセス制御、権限設定、ライセンス管理、セキュリティ対策等を行う。 ・「情報リテラシー」講義や等を通じ、倫理面に配慮し、適切に情報通信技術を活用できるよう指導していく。個人情報保護の徹底を継続して行っていく
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
【資料25】情報セキュリティについて（情報セキュリティセンターHP）
【資料26】情報リテラシーシラバス
【資料27】個人情報保護に関する誓約書

<b>6.3 情報通信技術 [質的向上のための水準]</b>
<b>2024 年度の評価：適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・APRIN プログラムが全学ポータルサイトで提供され、自己学習に活用されている。
<b>改善のための示唆</b>
・医療情報端末を、病院内で学生がより適切に利用できるよう拡充することが望まれる。
<b>関連する教育活動、改善内容や今後の計画</b>
・学生が自己学習を積極的に行えるようなコンテンツやソフトウェアに関して継続してカリキュラム策定委員会で議論していく。

- |  |
|--|
| ・2023年3月より病院外である学舎の一部の電子カルテでも手術映像収録配信システムが利用できるようになり、学生教育に活用できるようになっている。 |
|--|

<b>改善状況を示す根拠資料</b>
--------------------

【資料28】手術映像収録配信システムについて
------------------------

<b>6.4 医学研究と学識 [基本的水準]</b>
----------------------------

<b>2024年度の評価：適合</b>
---------------------

<b>特記すべき良い点（特色）</b>
---------------------

- |   |
|---|
| ・「医学研究推進コース1、2、3」を通じて、医学研究と教育が関連するように育む方針を策定し、履行している。 |
|---|

<b>改善のための助言</b>
-----------------

- |     |
|-----|
| ・なし |
|-----|

<b>関連する教育活動、改善内容や今後の計画</b>
----------------------------

- |  |
|--|
| ・医学研究推進コース3に基礎系講座だけでなく、2025年度から6教室の臨床系研究室が実習を担当する。 |
|--|

<b>改善状況を示す根拠資料</b>
--------------------

【資料29】医学研究推進コース3の教室一覧
-----------------------

<b>6.4 医学研究と学識 [質的向上のための水準]</b>
---------------------------------

<b>2024年度の評価：適合</b>
---------------------

<b>特記すべき良い点（特色）</b>
---------------------

- |  |
|--|
| ・「医学研究推進コース1、2、3」、「大学院準備コース（MD-PhDコース）」が設けられ、学生が研究開発に携わることを奨励している。 |
|--|

<b>改善のための示唆</b>
-----------------

- |     |
|-----|
| ・なし |
|-----|

<b>関連する教育活動、改善内容や今後の計画</b>
----------------------------

- |  |
|--|
| ・「医学研究推進コース1、2、3」、「大学院準備コース（MD-PhDコース）」を通じて、学生が医学の研究開発に携わることの奨励と準備を継続して行う。 |
|--|

- |   |
|---|
| ・「医学研究推進コース3」では、学生の自主性や自己選択の観点から配属される教室の選択方法の見直しを行った。 |
|---|

<b>改善状況を示す根拠資料</b>
--------------------

【資料30】2025年度医学研究推進コース3（修業実習）実施について
------------------------------------

<b>6.5 教育専門家 [基本的水準]</b>
--------------------------

<b>2024年度の評価：適合</b>
---------------------

<b>特記すべき良い点（特色）</b>
---------------------

- |   |
|---|
| ・カリキュラム開発、教育技法および評価方法の開発において医学教育専門家を活用している。 |
|---|

<b>改善のための助言</b>
-----------------

・なし
<b>関連する教育活動、改善内容や今後の計画</b>
・引き続き学内外の教育専門家と連携をとりながら、カリキュラム、教育技法、評価方法の開発を行っていく
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
【資料】なし

<b>6.5 教育専門家 [質的向上のための水準]</b>
<b>2024 年度の評価：適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・教職員の教育能力向上を目的に、学内外の医学教育専門家を活用している。 ・医学教育に関する研究を推進し、学会等で積極的に発信している。
<b>改善のための示唆</b>
・なし
<b>関連する教育活動、改善内容や今後の計画</b>
・引き続き学内外の教育専門家と連携をとりながら、カリキュラム、教育技法、評価方法の開発を行っていく ・学内の教育専門家の人才培养に力を入れていく。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
【資料】なし

<b>6.6 教育の交流 [基本的水準]</b>
<b>2024 年度の評価：適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・なし
<b>改善のための助言</b>
・国内外の人的交流をさらに積極的に進めるべきである。
<b>関連する教育活動、改善内容や今後の計画</b>
・引き続き、国内外の教育機関との交流を拡大させていく。具体的には、河北医科大学、香港大学李嘉誠医学部、カリフォルニア大学サンディエゴ校などと学術交流協定を新規締結し、国際交流を活発化させている。2024年現在、韓国、インド、台湾、タイ、アメリカ、ベトナム、インドネシア、中国、オーストラリア、アラブ首長国連邦、ベルギー、イタリア、カンボジアの@大学・機関と国際交流協定を締結している。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
【資料31】国際学術交流協定締結校一覧

<b>6.6 教育の交流 [質的向上のための水準]</b>
<b>2024 年度の評価：適合</b>

<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・海外からの留学生の受け入れに関して、市内に阿倍野留学生宿舎を提供している。
<b>改善のための示唆</b>
・なし
<b>関連する教育活動、改善内容や今後の計画</b>
・教職員と学生の要請に配慮した交流がされるよう、他施設との交流の成果を検証し、さらなる交流に向けた組織編成を行っていくことを計画している。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
【資料】なし

## 7. 教育プログラム評価

<b>7.1 教育プログラムのモニタと評価 [基本的水準]</b>
<b>2024 年度の評価：部分的適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・IR 室の体制が整備され、広く情報を収集している。
<b>改善のための助言</b>
・教育プログラムのモニタと評価をする仕組みに関わる各委員会について、役割と相互の関係性をより明確にすべきである。 ・教学の PDCA サイクルに関わる委員会について、構成員の観点から独立した組織にすべきである。 ・プログラム評価の結果をカリキュラムに確實に反映すべきである。
<b>関連する教育活動、改善内容や今後の計画</b>
・教育プログラムのモニタと評価に関する委員会である IR 運営委員会、カリキュラム評価委員会の役割を明確にするために、教育に関連する委員会の役割と構成委員の再検討を開始している。 ・教学の PDCA サイクルに関わる委員会の構成員に学生が参加することとともに独立性を確保するための構成員の再構成を検討し始めている。 ・プログラム評価の結果を確實に反映させるために各委員会の役割を明確にするとともにホームページや委員会に定期的に評価の結果を開示していく。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
【資料2】教務委員会戦略部会議事録（2025.5.1）、（2025.6.5）

<b>7.1 教育プログラムのモニタと評価 [質的向上のための水準]</b>
<b>2024 年度の評価：部分的適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・教育プログラムの評価のため、卒業生等からアンケートを広く収集している。
<b>改善のための示唆</b>

- ・教育活動とそれが置かれた状況、カリキュラムの特定の構成要素、および社会的責任について、包括的かつ定期的に教育プログラムを評価することが期待される。

#### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

- ・教育活動とそれが置かれた状況、カリキュラムの特定の構成要素、および社会的責任については各種アンケートを定期的に継続してモニタリングしていく。
- ・包括的に評価するために、アンケート以外のモニタリングを検討していく。想定されるものとして成績や評価方法、学習方略などが挙げられる。

#### **改善状況を示す根拠資料**

- 【資料8】卒業生の学修成果に関する調査
- 【資料32】学生生活アンケート
- 【資料33】教育資源に関する学生アンケート
- 【資料34】大学教育に関するアンケート
- 【資料35】初期研修修了後の進路調査

### **7.2 教員と学生からのフィードバック [基本的水準]**

#### **2024年度の評価：適合**

##### **特記すべき良い点（特色）**

- ・教員や学生からの多様なフィードバックを分析し、対応している。

##### **改善のための助言**

- ・教員と学生からのフィードバックをより系統的に求めるべきである

#### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

- ・今後も教員と学生からのフィードバックを系統的に確実に実施していく。

#### **改善状況を示す根拠資料**

- 【資料】なし

### **7.2 教員と学生からのフィードバック [質的向上のための水準]**

#### **2024年度の評価：適合**

##### **特記すべき良い点（特色）**

- ・教員や学生からのフィードバックを受けて、アクティブラーニングの推進やMini-CEXの積極的な導入等、教育プログラムが改善されている。

##### **改善のための示唆**

- ・なし

#### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

- ・教員や学生からのフィードバックは継続して実施し、必要な改善を確実に実施していく。

#### **改善状況を示す根拠資料**

- 【資料】なし

### **7.3 学生と卒業生の実績 [基本的水準]**

<b>2024 年度の評価：部分的適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・卒後 2 年目研修医とその指導医から、学修成果についての実績をアンケートにより収集していることは評価できる。
<b>改善のための助言</b>
・使命と学修成果の達成について、客観的なデータを用いて学生の実績を分析すべきである。 ・卒業生のより長期的な成果についての実績を収集すべきである。
<b>関連する教育活動、改善内容や今後の計画</b>
・使命と学習成果の達成度が自己評価にとどまっているため、それ以外の評価を実施できるように検討していく。その結果を分析して、教育活動の改善を目指す。 ・卒業生のより長期的な成果については、必要な実績の検討とその収集方法を含めて継続的に検討していく。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
【資料】なし

<b>7.3 学生と卒業生の実績 [質的向上のための水準]</b>
<b>2024 年度の評価：部分的適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・入学試験成績と入学後の成績との相関を分析している。
<b>改善のための示唆</b>
・学生のカウンセリングの実績について責任ある委員会へフィードバックを提供することが望まれる。
<b>関連する教育活動、改善内容や今後の計画</b>
・学生カウンセリングの実績であるチューター面談については教務委員会や戦略部会を中心にフィードバックされているので、継続していく。 ・学生カウンセリングの実施状況やその内容を確実に把握できるような体制を整えていく。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
【資料4】教務委員会議事録（2024. 12. 17）

<b>7.4 教育の関係者の関与 [基本的水準]</b>
<b>2024 年度の評価：部分的適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・なし
<b>改善のための助言</b>
・カリキュラム評価委員会に学生代表と学外実習関連病院の指導医との参加を促し、カリキュラムに対するフィードバックを収集し、教育プログラム評価に関与させるべきである。
<b>関連する教育活動、改善内容や今後の計画</b>

- ・カリキュラム評価委員会の委員構成や委員会の開催に関する規定の見直しを検討し始めている。

#### **改善状況を示す根拠資料**

【資料2】教務委員会戦略部会議事録（2025.5.1）、（2025.6.5）

### **7.4 教育の関係者の関与 [質的向上のための水準]**

#### **2024年度の評価：部分的適合**

##### **特記すべき良い点（特色）**

- ・収集したアンケートの分析結果を公表している。

##### **改善のための示唆**

- ・教育プログラムの評価の結果について、分かりやすく公表することが望まれる。

##### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

- ・アンケートの結果の公表の際に、評価の結果を合わせて公表する方向で検討している。
- ・早期臨床実習3で学生が担当した患者さんのアンケート項目に教育プログラムに対するフィードバックを導入した。

#### **改善状況を示す根拠資料**

【資料9】IR運営委員会議事録

【資料36】カリキュラム評価委員会戦略部会議事録（2025.6.5）

【資料37】3年生 早期臨床実習3(Third Experience)報告について

## **8. 統括および管理運営**

### **8.1 統括 [基本的水準]**

#### **2024年度の評価：部分的適合**

##### **特記すべき良い点（特色）**

- ・なし

##### **改善のための助言**

- ・教学に関わる委員会組織を明確にし、その機能と大学内での位置づけを明確にすべきである。

##### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

- ・教育に関連する各委員会の規定の内容の見直しを行っている。
- ・カリキュラム策定委員会とカリキュラム評価委員会の透明性担保のため、それぞれの構成員の見直しを検討している。
- ・教務委員会については構成員の見直しを行った。

#### **改善状況を示す根拠資料**

【資料2】教務委員会戦略部会議事録（2025.5.1）、（2025.6.5）

【資料38】2024年度 教務委員会委員

【資料39】2025年度 教務委員会委員

<b>8.1 統括 [質的向上のための水準]</b>
<b>2024 年度の評価：適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・教育点検評価委員会に主な教育の関係者およびその他の教育の関係者を委員として含め、統轄に関する意見を反映している。
<b>改善のための示唆</b>
・統轄業務とその決定事項を教授会への報告だけでなく、可能な範囲で学生を含む主な教育の関係者にわかりやすい議事録等によって開示し、さらなる透明性を確保することが望まれる。
<b>関連する教育活動、改善内容や今後の計画</b>
・教授会の議事録などをはじめ、統轄業務に関する議事録を学生やその他関係者に対してどのように開示していくかを検討していく。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
【資料】なし

<b>8.2 教学における執行部 [基本的水準]</b>
<b>2024 年度の評価：部分的適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・なし
<b>改善のための助言</b>
・教学における各委員会の規程を整備し、各委員長の責務を明確に示すべきである。
<b>関連する教育活動、改善内容や今後の計画</b>
・教育に関連する各種委員会の規定の内容の見直しを進めていく。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
【資料2】教務委員会戦略部会議事録（2025.5.1）、（2025.6.5） 【資料38】2024年度 教務委員会委員 【資料39】2025年度 教務委員会委員

<b>8.2 教学における執行部 [質的向上のための水準]</b>
<b>2024 年度の評価：部分的適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・なし
<b>改善のための示唆</b>
・教学における執行部の評価を、医学部の使命と学修成果に照合して、定期的に行うことが望まれる。
<b>関連する教育活動、改善内容や今後の計画</b>
・研修医の研修病院に対して卒業生の学修成果に関するアンケートを IR 室にて

収集している。本学の教育理念である「智」「仁」「勇」の習得度や、卒業時のコンピテンス・コンピテンシーを多角的に評価していただくようにしており、これらの結果を集計・解析していくことで執行部の継続的な評価に繋げることができると考えている。

#### **改善状況を示す根拠資料**

【資料8】2024年度卒業生の学修成果に関する調査

### **8.3 教育予算と資源配分 [基本的水準]**

#### **2024年度の評価：適合**

##### **特記すべき良い点（特色）**

- ・教育上の要請に沿って「感染症医療人材養成事業補助金」や「医学部等教育・働き方改革支援事業補助金」等の外部資金を獲得して、教育資源としている。

##### **改善のための助言**

- ・なし

##### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

- ・なし

##### **改善状況を示す根拠資料**

【資料】なし

### **8.3 教育予算と資源配分 [質的向上のための水準]**

#### **2024年度の評価：適合**

##### **特記すべき良い点（特色）**

- ・医学の発展と社会の健康上の要請を考慮し、新たに「大阪国際感染症研究センター」を設置し、さらに認知症および小児・周産期医療を担う新病院の建設が進行中である。

##### **改善のための示唆**

- ・なし

##### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

- ・大阪国際感染症研究センターでは、大阪ひいては広く国内外の感染症対策について科学的根拠を国際的見地からも提供するとともに、高度な知識及び技術を修得した感染症対策に携わる人材の育成をめざしていく。
- ・住吉市民病院跡地に整備する新施設については、令和9年度の開設に向けて建設計画が立てられている。

##### **改善状況を示す根拠資料**

【資料40】大阪国際感染症研究センターHP

【資料41】大阪市HP 住吉市民病院跡地に整備する新施設「付属棟（小児科・産婦人科外来）」について

### **8.4 事務と運営 [基本的水準]**

<b>2024 年度の評価：適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・教育プログラムと関連の活動を支援するため、附属病院運営本部に学務課が設置されている。
<b>改善のための助言</b>
・なし
<b>関連する教育活動、改善内容や今後の計画</b>
・なし
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
【資料】なし

<b>8.4 事務と運営 [質的向上のための水準]</b>
<b>2024 年度の評価：適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・定期的な点検を含む「大阪公立大学における内部質保証に関する基本方針」を策定し、履行している。
<b>改善のための示唆</b>
・なし
<b>関連する教育活動、改善内容や今後の計画</b>
・引き続き内部質保証による大学の評価・改善を継続し、本学の教育研究等の質を保証していく。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
【資料】なし

<b>8.5 保健医療部門との交流 [基本的水準]</b>
<b>2024 年度の評価：適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・保健所実習・救急車同乗実習を通して、保健医療機関および大阪市消防局と交流を持っている。 ・「大阪公大による医療連携プログラム Face to Face の会」などを開催し医師会と意見交換を行っている。
<b>改善のための助言</b>
・なし
<b>関連する教育活動、改善内容や今後の計画</b>
・引き続き、「保健所実習・救急車同乗実習」や「大阪公大による医療連携プログラム Face to Face の会」を継続することで保険医療関連機関や職種間の連携を充実させていく。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
【資料42】大阪公立大学医学部附属病院における医療連携『Face-to-Faceの会』（第52回・第53回・第54回）

<b>8.5 保健医療部門との交流 [質的向上のための水準]</b>
<b>2024 年度の評価：適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・早期診療所実習、ユニット型 CC での救急車同乗実習および選択型 CC での保健所・保健福祉センター実習を通して、保健医療関連部門と協働している。
<b>改善のための示唆</b>
・なし
<b>関連する教育活動、改善内容や今後の計画</b>
・なし
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
【資料】なし

## 9. 繼続的改良

<b>[基本的水準]</b>
<b>2024 年度の評価：適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・IR 室において各種データを収集・分析し、明らかになった課題を修正している。
<b>改善のための助言</b>
・教育プログラムの教育課程、構造、内容、学修成果/コンピテンシー、評価ならびに学修環境を今後も定期的に見直し、改善すべきである。
<b>今後の計画</b>
・整備が進んできた IR 室の機能とデータ基盤をさらに活用し、PDCA サイクルの運用をさらにブラッシュアップしていく方針である。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
【資料8】2024年度 卒業生の学修成果に関する調査 【資料33】2024年度 教育資源に関する学生アンケート 【資料34】2024年度 大学教育に関するアンケート

<b>[質的向上のための水準]</b>
<b>2024 年度の評価：評価を実施せず</b>
<b>関連する教育活動、改善内容や今後の計画</b>
・2024 年度は当該項目に関する評価は実施されておらず、現時点では特記すべき内容はありません。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
【資料】なし